



借用したハンマーナイフでの草刈り

れているのかなと感じます。

また、一緒に作業することで同じ時代に生きた人間がまだ消えていないと確かめられるのも良いです。活動するのはひとりぼっちになりたくないってことかな。まわりに一緒に活動できる人たちがいることで安心できます。「働く敬老会」でしょうか(笑)

・仲間と楽しく話しながら体を動かして、地域の情報交換なんかもできる。ボケ防止にいいですし、それで地域のお役に立てるのも嬉しいですね。

〈逆に、大変だと感じるのはどんな時ですか〉

・この仕事が好きでメンバーの集まりだからそんなに感じることはないかもしれませんが……。とんでもない山の整備の依頼とか。あれは危険分野ですね(笑)

・草刈り機とかチェーンソーとかの扱いも、危険を伴います。一つ間違えると大怪我に繋がりますから、一日、無事に活動を終えることができて、作業した場所が綺麗になっているのを見ると、「ああよかったなあ」と思います。

〈課題と感じているのはどんなことですか〉

・とにかく資金不足が課題です。休耕田とか西方川、防災用の池とかで作業をするときは、ハンマーナイフが欲しいです。竹や枝を切った後、処理をするときの粉砕機も有れば良いですね。現在はお金を払って処分しているの。必要な備品を買う資金が得られるか、市が粉砕機を用意して貸し出すなど、対応してくれると助かります。

・郷援隊の活動は、基本的にボランティアです。他の地域でもこういう組織ができると、地域がキレイになるし、年を取ってから無理なくやりがいをもって動くこともできて、いいんじゃないかと思っています。



ご協力ありがとうございました。

〈取材協力〉

取材にご協力いただいた郷援隊の皆さま